

令和元年度市長との小学校区意見交換会（岩倉北小学校区）記録

日時 令和2年2月1日(土)

午前10時～正午

場所 地域交流センターくすのきの家

出席者 市民 57名

市長、副市長、総務部長、市民部長、健康福祉部長、建設部長、消防長、
教育こども未来部長、学校教育課長、子育て支援課長、学校教育課主幹、
地域問題研究所 池田氏（コーディネーター）、事務局（秘書企画課）

【第1部】

テーマ「第5次岩倉市総合計画策定に向けて」

1 あいさつ

2 第4次岩倉市総合計画基本計画の総括 秘書企画課主幹

第5次岩倉市総合計画の展望 市長

3 意見交換

（1）安心していきいきと暮らせるまち（健康・福祉）

（2）自然と調和した安全でうるおいのあるまち（環境・防災防犯）

【意見等】 第4次岩倉市総合計画基本計画に記載されている項目は全て完了しているのか。

【意見等】 市街化調整区域の見直しや一宮春日井線がきちんと整備されるのかどうかなど今後の見通しについて聞きたい。

【意見等】 岩倉市の障がい児保育は、障がい児を預けるためにその保護者は就労しなければならないというのが現状である。しかし、名古屋市や犬山市、稲沢市では、その制限がなく、障がいがあるという証明書があれば保育園に入園することができる。岩倉市も制限をなくせないのか。

【市長】 第4次岩倉市総合計画基本計画に記載されている項目について完了していないものもまだある。完了できていないものについては、今後問題点などを整理していきたいと考えている。

一宮春日井線については、尾張北部地域にとっても重要な路線であるが、岩倉市だけが頑張っても達成することはできないため、小

牧市と協力して整備してきた。また、県道であることから県の予算の配分も影響してくることもあり、名古屋江南線もそうだが、なかなか進んでいないように見える。しかし、事業は着実に進んでいる。今後も、ハード面だけではなく、受け入れ態勢などまちづくり全般を見て進めていきたい。

岩倉市は子育て支援に重点をおいて取り組んでいるので、今後も分け隔てない子どもへの支援は重要だと考えている。これまで展開してきた保育園政策についても理由があって、実施してきたことであるが、今の時代に合わないことがあるのかもしれない。そのために、皆さんから要望を聞き、改善すべきことは改善したい。

【副市長】 障がい児保育については、今までも要望をいただき、改善できる部分は改善をしてきた。例えば、4、5歳になったときに集団保育の方が子どものためになるので、できるだけ保育園に通える環境を整備した。しかし、保育園に通うために保護者に就労してもらわなければならない点についてまだ改善できていない。この点についての要望が多いことは認識しているが、どのように改善していけるのかは保育園の受け入れ態勢もあるので、今後の課題として検討していきたい。

(3) 豊かな心を育み人が輝くまち（生涯学習・教育）

(4) 快適で利便性の高い魅力あるまち（都市基盤）

【意見等】 総合体育文化センター周辺の農地保全ゾーンは、残念ながら今後農業を拡大して行っていくという状況ではなくなっている。どんどん住宅も建っているので、この地区こそ住宅系拡大検討ゾーンにするべきではないか。

【意見等】 基本目標2の公園整備推進事業について、岩倉市には大型遊具がある地区公園や総合公園がないので、近隣市に出かけなければならない。子ども条例にも規定されている子どもたちの遊び場として大型遊具がある公園をぜひ作ってほしい。

【意見等】 最近は、車を利用する人も少なくなっているので、桜通線の整備について見直しを行ってはどうか。例えば、岩倉駅は、夕方になると車が多く渋滞してしまうので、桜通線を一方通行にし、駐車スペースを設け、駅に人を迎えにきた車をそこに入れれば、混雑が解消され、タクシーやバスの交通の妨げにならないのではないかと。また、一方通行にすることで歩道を広くし、ヨーロッパのようなテラスを設け、高齢者などの憩いの場にできるのではないかと。

【市 長】 総合体育文化センター周辺を住宅系拡大検討ゾーンにというご提案については、これから人口がどんどん減少していく中で、新たな住宅用地の整備がどこまで必要なのかの見極めも必要になる。また、土地の活用方法は住宅以外にもあるので、検討していきたい。大型遊具や芝生広場がある公園を作りたいという思いは持っているが、岩倉市の土地の事情から、それだけの土地を用意することは難しい。チャンスがあれば、夢のある公園を整備したい。

近年は高齢化により車を利用する人が減少していることもあり、ご指摘のとおり計画の見直しをしてはというご意見はあるかと思うが、現段階ではまだ見直しというのは考えていない。しかし、駅のロータリーの渋滞の問題については承知しているので、一つの課題と捉えて検討していきたい。

(5) 地域資源を生かした活力あふれるまち（産業）

(6) 市民とともに歩む ひらかれたまち（協働・行財政運営）

【意見等】 今後、人口が減少していく中で、財政収入をどう確保していくのか。例えば、他市では市道をネーミングライツに活用しているので、岩倉市でも収入を少しでも増やす方法を考えてほしい。

【意見等】 五条川健幸ロードについて、五条川沿いを歩く人や自動車を運転する人の安心・安全のためにも橋梁にはアンダーパスもしくは高架を設けてほしい。

【意見等】 シティプロモーションについて、現在あまり効果が上がっていないのではないか。今後は、空き家の施策と組み合わせるなど総合的に考え、効果の上がるものにしてほしい。

【意見等】 土地利用については、今後どこに相談していけばよいのか。また、先ほどの財政収入の話に関連して、今後、市の事業を民営化して経費を抑えるという話になった場合でも、人の命に関することは公共がしっかり行ってほしい。

【意見等】 基本目標3にある教育用タブレットの導入についてはどうなっていくのか。全ての生徒分で考えているのか。高学年の生徒だけなのか。

【市 長】 今後、財政収入を増やしていくことは大きな課題だと考えている。日々、情勢が変化していく中で、同じことを行ってもただ埋もれていくだけになってしまうため、改革が必要であり、その中でも、民間活力の活用はぜひ取り入れたいと考えている。サービスの種類によっては民間の方が得意なことがあるので、サービスの向

上という面では期待できるが、それにより経費の削減が劇的に行えるわけではない。また、ネーミングライツについては、岩倉市にはその対象となる施設が多くないが、機会を捉えて検討していきたい。

健幸ロードについて、五条川沿いを優先にして東西を一時停止にしてはどうかという考えをもっているので、警察にも機会を捉え、話はしている。しかし、規制を変えることはなかなか難しいようだ。安全については最優先事項であるので、五条川沿いを安心して、活用できる環境整備は行っていきたい。

シティプロモーション事業については、すぐには効果が見えづらいが、岩倉市という名前を示せるという点で効果はあったのではと考える。例えば、市外に住んでいる人が引っ越しの際に選択肢に入れてもらえるのではないかな。また、シティプロモーションを市内の人たちと一緒にすることも大切である。多くの人に関わってもらい、岩倉市の良さを再認識してもらうことで定住意識が高まると考えている。岩倉市の人口は、一昨年は秋ぐらいから人口がぐっと減ってしまったが、今年は4万8000人を維持している状況である。人口は、劇的に増えるものではないが、じわじわと効果が出てくると考えている。

土地利用については、現在、第5次総合計画の策定と並行して、都市計画マスタープランという、土地利用のより詳細な計画を建設部の都市整備課が中心に作っている。土地利用については、都市計画マスタープランとリンクさせながら、進めている。

民間委託については、本来市が行うべきことを替わりに行ってもらおうというもので、責任まで丸投げするものではない。市で行うよりも、サービスの質が向上する、もしくは経費の削減になる業務を委託している。

タブレットについては、各学校のパソコン教室に導入している。

【教育こども未来部長】 今年度に教育用パソコンの更新を迎え、今まで使用していたデスクトップパソコンから、取り外すことでタブレットとして利用できるパソコンに変更した。国からは令和5年度を目途に生徒一人ひとりにタブレットを整備するという方針が急に示された。今後、順次整備していくが、いつまでに完了するということはまだ分からない。